

問 よつぎ小学校との交流事業がコロナ禍により行われていないが、今後どうしていくのか伺う。

答 令和4年1月に初めてとなる冬の交流事業を開催する。来年度の実施については、開催時期や実施内容を検討し交流事業を継続する。

鹿角市の農業問題について

問 景観作物やエネルギー作物などの栽培を推奨すれば、造園業など新たな業種の参入にもつながり、業務拡大や雇用の拡大につながる可能性も秘めていると考える。米・そばに代わる第三の指針を探ってみる必要があると思うが考えを伺う。

答 新たな品目を検討する場合、生産者と所有者の意向や農地周囲の影響も考慮する必要がある。このため、農林水産省の最適土地利用対策事業を活用する際は、住民や生産者の理解と協力を得て計画を策定し、モデル事業としての実証を行う必要がある。まずは現行のノウハウが活用可

能な作物を優先して調査を進める。

かつのパワーについて

問 蓄電施設やEVステーション、EV車の保有などで、災害時にも地域単独で電力を自給自足できるマイクログリッドなどは考えていないのか伺う。

答 災害時にも電気が使えるよう既存の送電網に依存せずに、地域の再エネを直接地域で使用できる方策を検討することとしている。これは自家発電設備や蓄電池のほか、EV車やオンサイト型のEVステーションの導入などによる仕組みづくりを想定している。

質問した項目
 ■鹿角市の農業問題について
 ■かつのパワーについて
 ■ヘリテージ・ツーリズムについて
 ■よつぎ小学校との交流事業について



録画配信はこちらから

金澤 大輔 議員
 （鹿真会・公明）



問 子宮頸がんワクチンの接種は個別接種が基本となると考えるが接種勧奨時期はいつか。

答 令和4年4月から個別接種できるよう医療機関に依頼する。対象となる13歳から16歳の方には令和4年3月頃から個別通知により勧奨する。

カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みについて

問 山林の適切な管理が温室効果ガス削減のため重要だと考えるが今後の管理計画について伺う。また地域産材の利活用の推進についても考えを伺う。

答 民有林の所有者が希望する場合に市が山林の管理権を預かり、採算性の高い経済林を林業事業体に再委託する制度がある。国が示す約10年間で本市全域の対象区域を再委託する計画としている。地域産材の利活用については木育推進事業を通じて地域の林業、木材の魅力について啓

質問した項目
 ■子宮頸がんワクチン接種について
 ■カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みについて
 ■デジタル化の推進について

倉岡 誠 議員
 （誠心会）



木材の魅力について啓

発するほか、協定を締結している東京都葛飾区の学校校舎の改築などで鹿角産材の利活用を検討している。

子宮頸がんワクチン接種について

問 これまでに接種機会を逃した方への対応はどのようにされるのか伺う。

答 国において公平な接種機会を確保する観点から、来年度に17歳から25歳までになる方を対象に、時限的に従来の定期接種の対象年齢を超えて接種を行うことについて協議が進められており、本市においても対象年齢や実施期間が示され次第、速やかに周知できるように準備を進める。



録画配信はこちらから